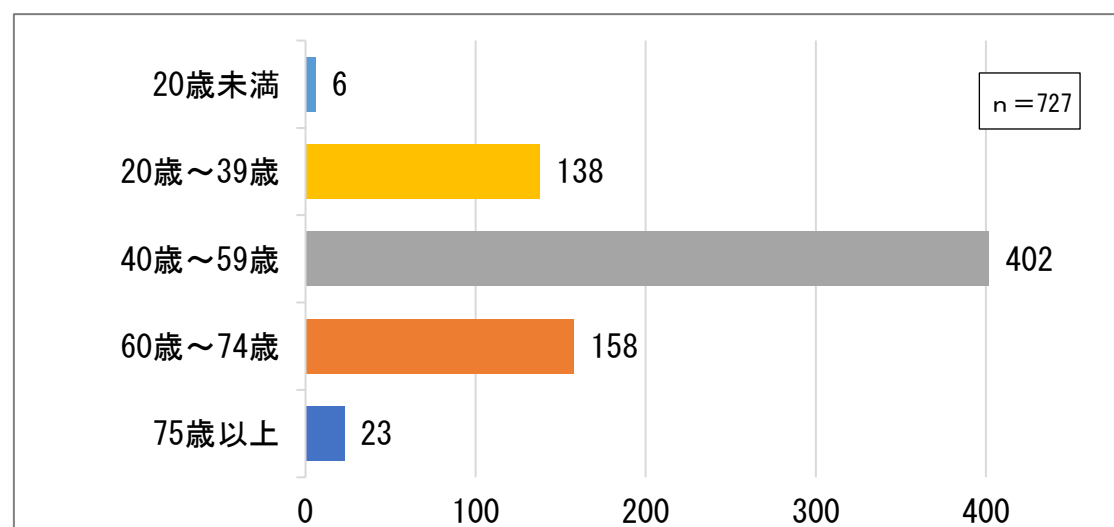
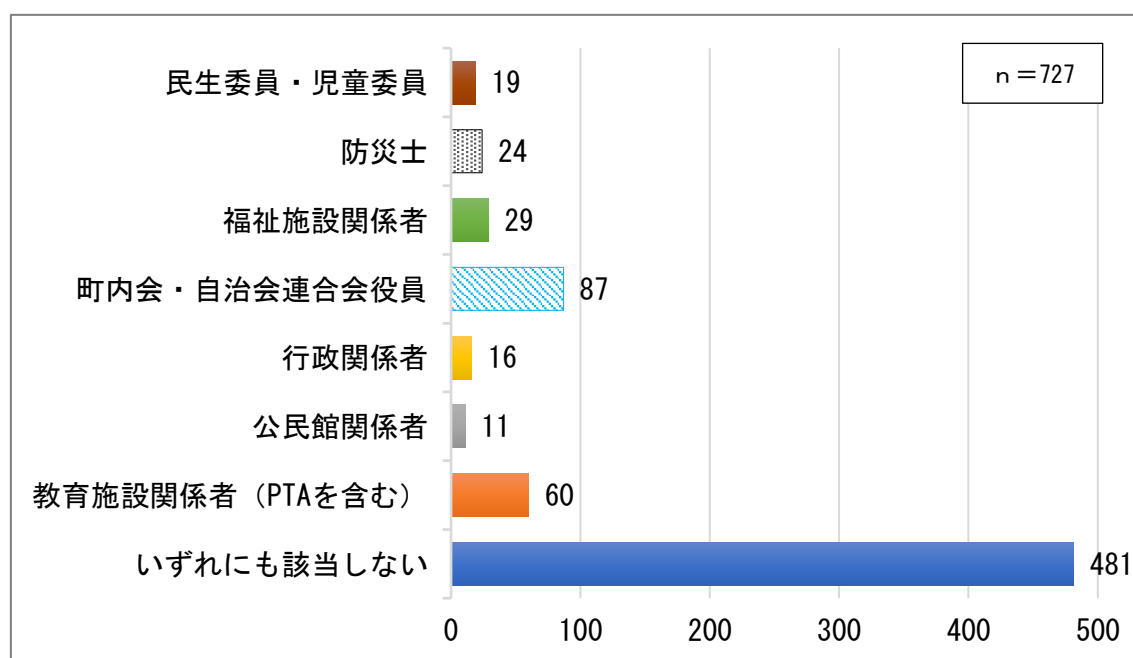


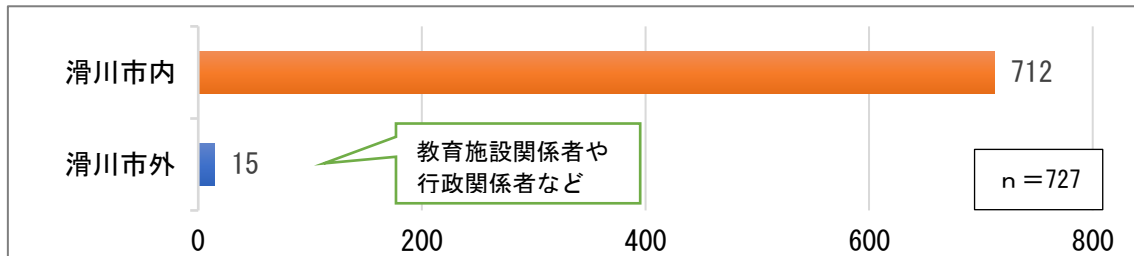
問1 ご自身の年齢についてお答えください。



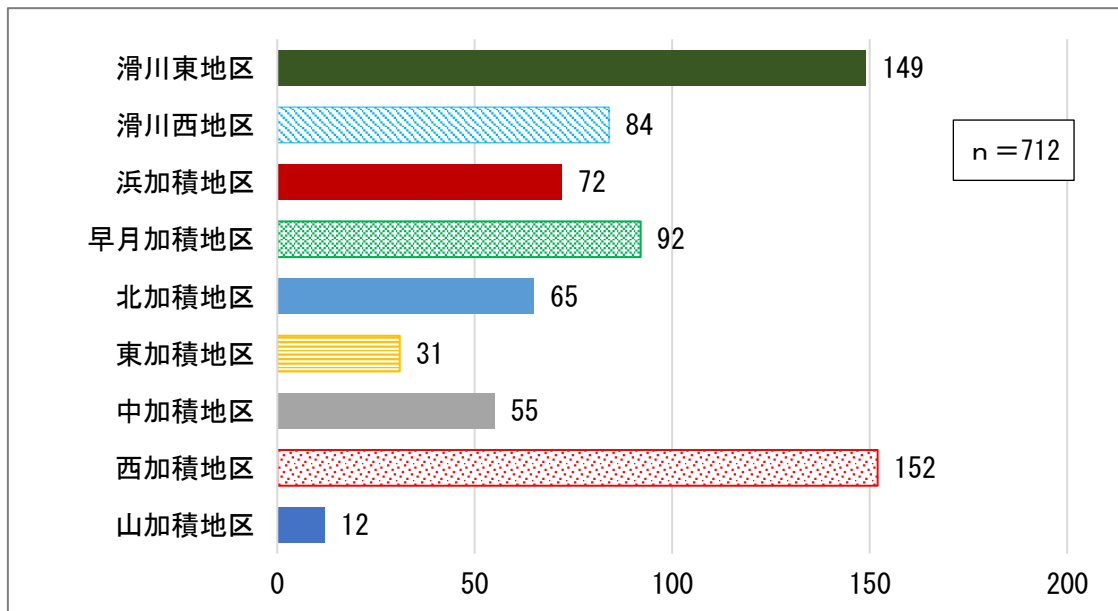
問2 ご自身の立場についてお答えください。



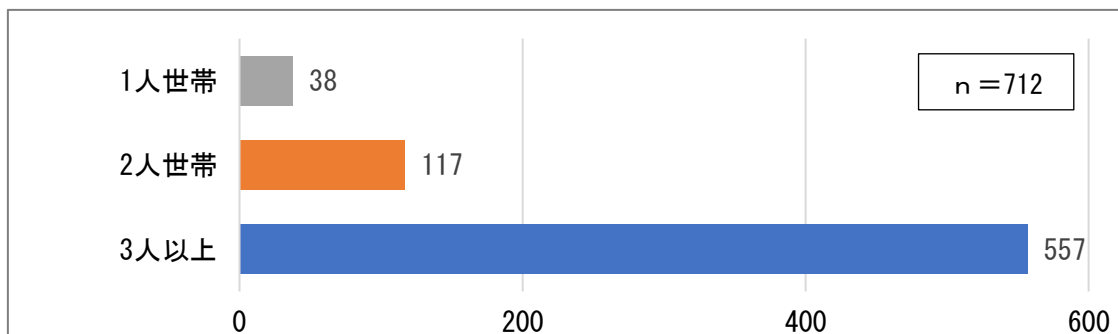
問3 お住まいについてお答えください。



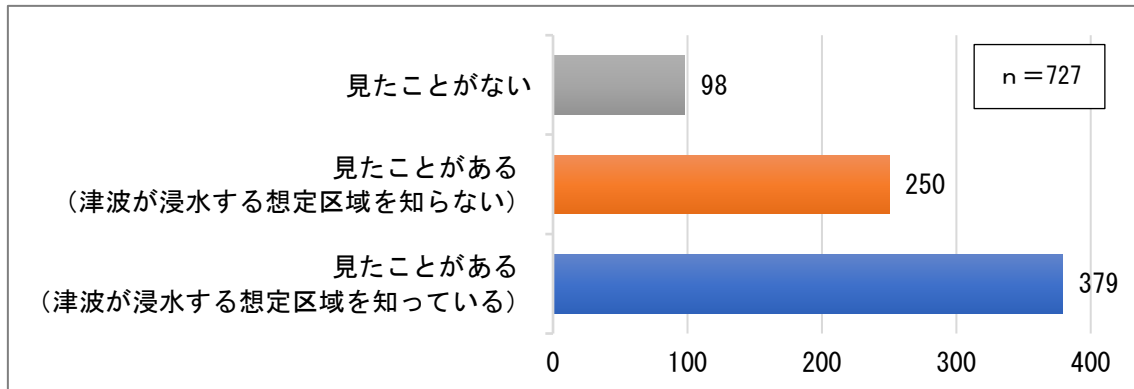
問4 お住まいの地区をお答えください。
(問3で滑川市内と回答した方)



問5 世帯状況についてお答えください。
※ 問3で滑川市内と回答した方が対象



問6 滑川市の津波ハザードマップを見たことはありますか。

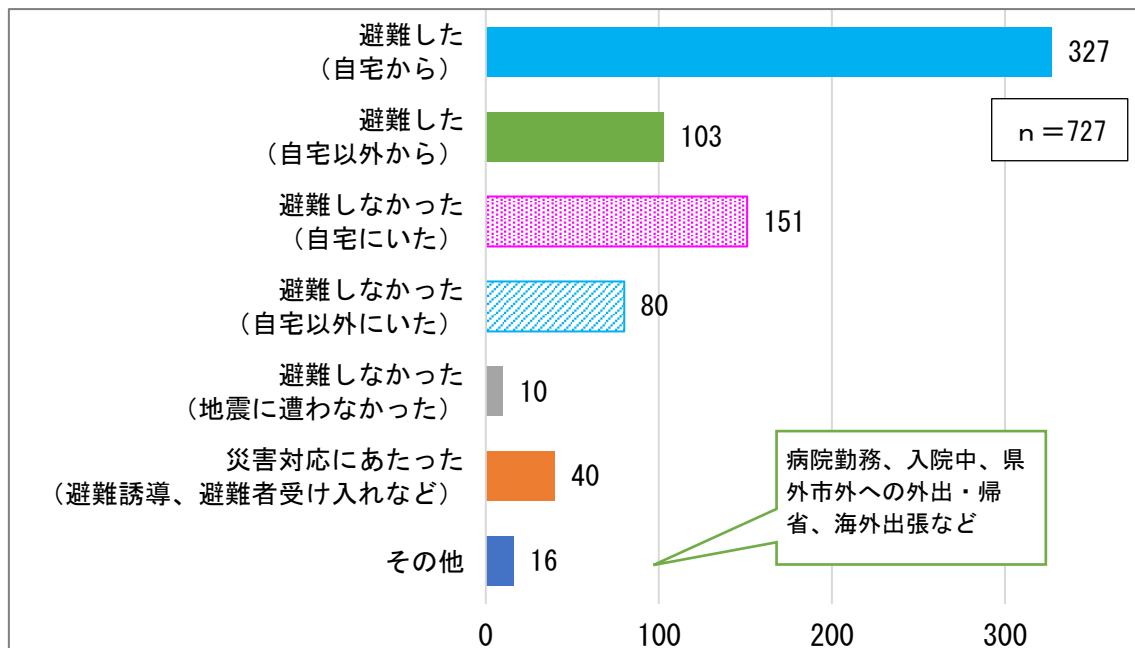


津波が浸水する浸水想定区域を知っている方は、約5割という結果でした。

ハザードマップでどこにどのような災害の危険があるかを知ることが、災害への備えの第一歩になりますので、市民へのハザードマップの周知や普及に取り組む必要があります。

なお、知っている方の割合に地区別で大きな差異はなく、浸水想定区域が含まれる地区の方が知っている方の割合が多いということはありませんでした。住んでいる地区に関わらず防災意識の高い方がハザードマップを把握しているものと考えられます。

問7 地震の発生や津波警報の発表を受けてどうしましたか。



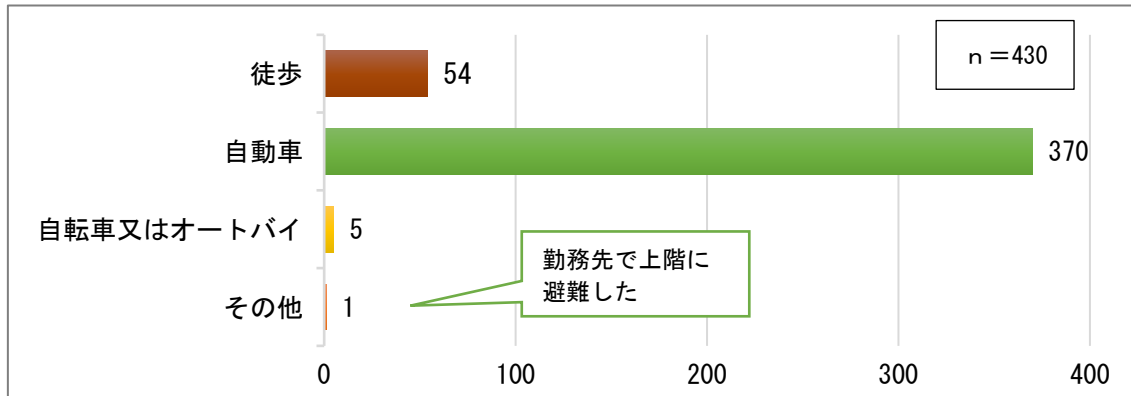
自宅にいて「避難した」…Aと「避難しなかった」…Bの割合を地区別で見ると、次のようになります。（※は浸水想定区域（沿岸部）を含む地区）

滑川東地区※	A 83.50%	B 16.50%
滑川西地区※	A 85.19%	B 14.81%
浜加積地区※	A 80.00%	B 20.00%
早月加積地区※	A 64.06%	B 35.94%
北加積地区	A 54.55%	B 45.45%
東加積地区	A 18.75%	B 81.25%
中加積地区	A 37.50%	B 62.50%
西加積地区	A 78.00%	B 22.00%
山加積地区		B 100.00%

浸水想定区域（沿岸部）を含む地区※は浸水想定区域（沿岸部）を含まない地区に比べて避難した割合が高いといえます。また、浸水想定区域を含まない地区でも多くの方が避難したと考えられます。想定外を考え避難することはもちろん間違いではありませんが、場所によっては慌てて避難する必要はなく、非常持出品の準備や地震・津波情報の収集を行いながらいつでも避難できる態勢を整えておくなど、災害時こそ落ち着いた行動が求められます。

問 8 避難の際の移動手段をお答えください。

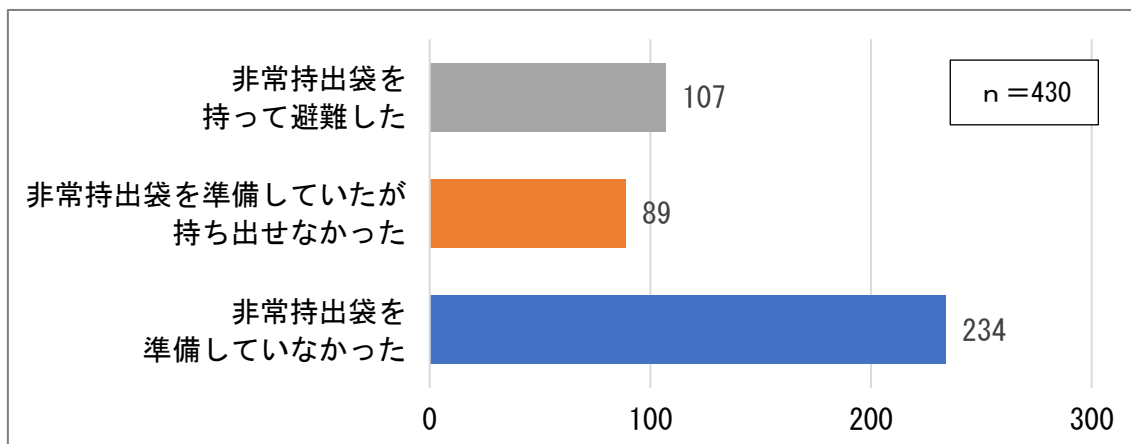
※ 問 7 で避難したと回答した方が対象



8 割を超える人が車で避難したという結果でした。今回のように道路渋滞が発生するリスクを避けるため、津波の避難は徒歩が原則となっていますが、実際には、高齢者や障がい者、妊産婦、乳幼児など徒歩での避難が困難な方もいらっしゃいます。徒歩を原則としながら、避難者の状況、避難所までの距離や道路状況などを考慮し個々の実情に応じた適切な判断が必要です。また、平時に徒歩や車、自転車など複数の避難方法を実際に試してみることも有効です。

問 9 避難の際の非常持出袋についてお答えください。

※ 問 7 で避難したと回答した方が対象

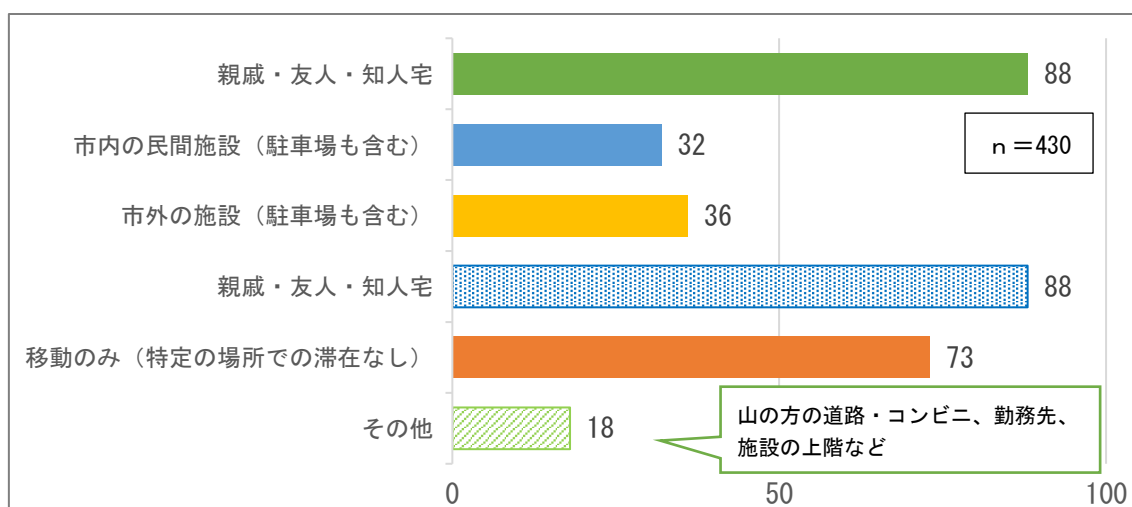


非常持出袋を持って避難した方は全体の 4 分の 1 という結果でした。食料や飲料も含めて避難先でご自身が必要な物をご自身でお持ちいただくことが基本

です。また、避難所では不便が生じるとともに、必要とする物があるとは限りません。ご自身のために、避難先で少しでも快適に過ごせるよう非常持出袋を準備しておくことが大切です。また、すぐ持ち出せる場所に準備しておくことも大切です。

問10 避難の際の避難先をお答えください。

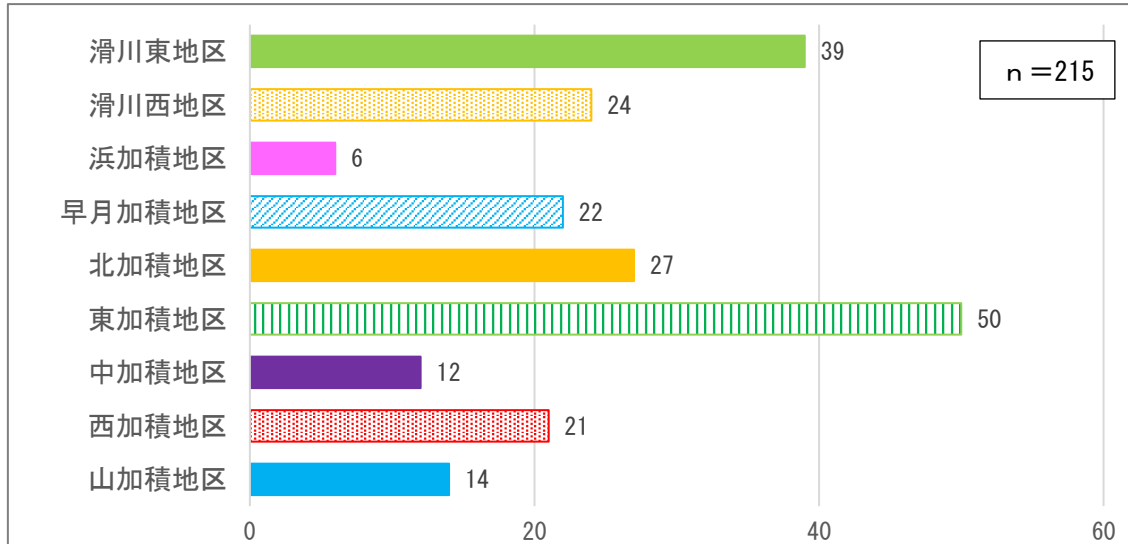
※ 問7で避難したと回答した方が対象



避難先として指定避難所である公共施設を選択する方は多いため、公共施設には避難施設としての機能強化に取り組む必要があります。一方、もともと居住することを想定した施設ではないため、不便が生じたりストレスを感じたりするということも理解していただきたいと思います。

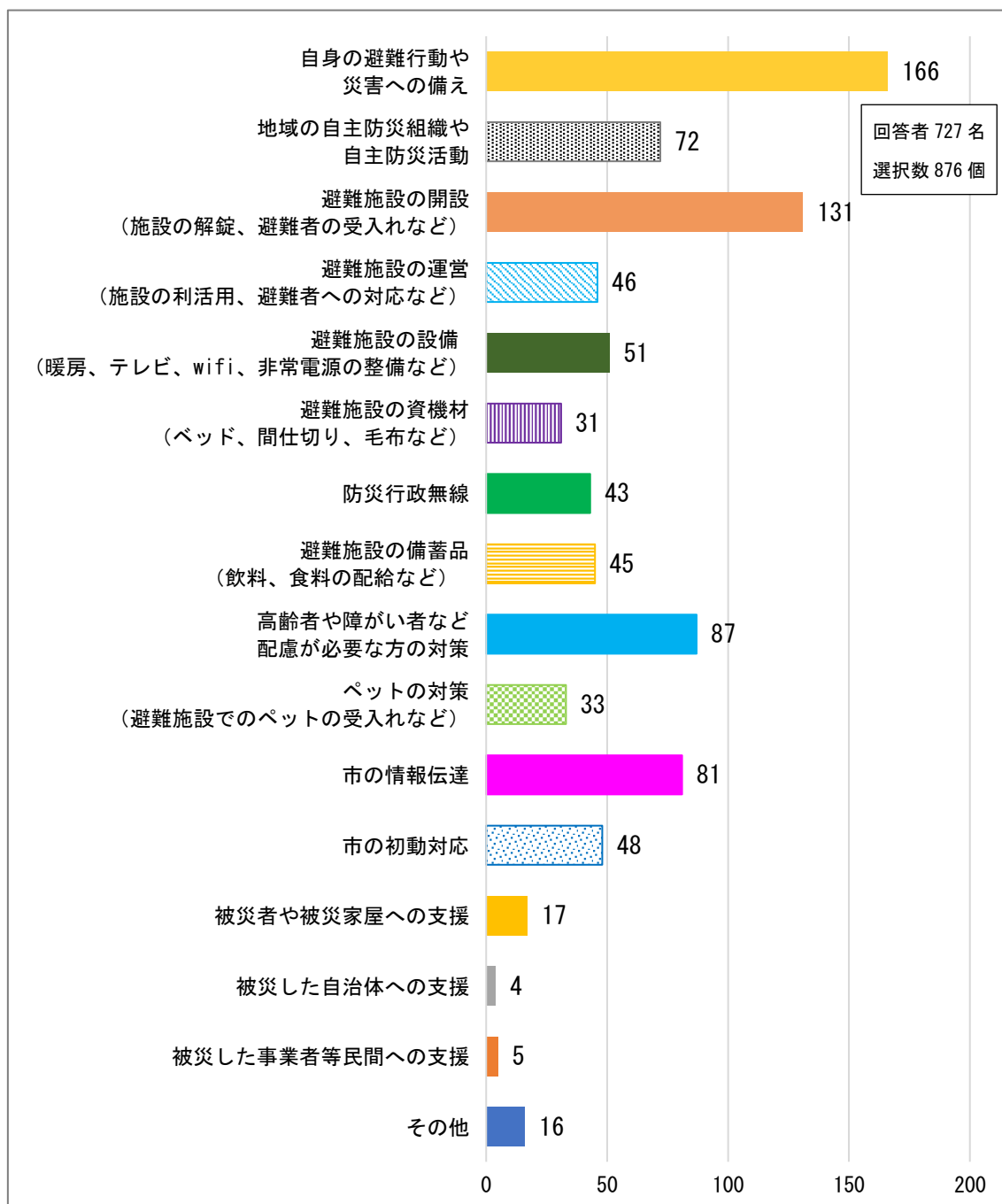
問11 避難した施設はどの地区にありますか。

※ 問10で市内の公共・民間施設と回答した方が対象



それぞれの地区の避難施設にどの地区にお住まいの方が避難したかをみると、概ね、どの地区においても、お住まいの地区の施設に避難した方が一番多く、東加積地区の施設に避難した方が二番目に多いという結果でした。なお、東加積地区の施設に避難した方の内9割を超える方は他地区の方でした。また、山加積地区の施設に避難した方は、全員が他地区の方でした。津波の避難であったため、できるだけ高い方へという心理が働いたものと考えられます。避難所の開設においては、他地区の避難者の受け入れや山間部の避難所の開設などを想定した対策や取組も考えなければなりません。

問12 今回の地震発生に関して、課題がある又は改善が必要と感じたものがあればお答えください。（4つまで）



一番多かったのは「自身の避難行動や災害への備え」で7割以上の方が選択しています。2番目に多かったのは、「避難施設の開設」で約4割の方が選択しています。次いで「市の情報伝達」「高齢者や障がい者など配慮が必要な方の対策」が3割弱となっています。

また、問2でお答えいただいた立場別では、以下のとおり課題を選択しています。（上位3位）

立場別	順位	課題など	割合
町内会・自治会連合会役員	1	自身の避難行動や災害への備え	63.22%
	2	避難施設の開設	45.98%
	3	市の情報伝達	40.20%
民生委員・児童委員	1	自身の避難行動や災害への備え	78.95%
	2	高齢者や障がい者など配慮が必要な方の対策	63.16%
	3	地域の自主防災組織や自主防災活動	57.89%
教育施設関係者	1	自身の避難行動や災害への備え	73.33%
	2	避難施設の開設	45.00%
	3	避難施設の備蓄品	28.33%
福祉施設関係者	1	自身の避難行動や災害への備え	82.76%
	2	高齢者や障がい者など配慮が必要な方の対策	58.62%
	3	避難施設の開設	48.28%
公民館関係者	1	避難施設の開設	72.73%
	2	地域の自主防災組織や自主防災活動	63.64%
	3	自身の避難行動や災害への備え	45.45%
防災士	1	自身の避難行動や災害への備え	50.00%
	2	避難施設の開設	45.83%
	3	地域の自主防災組織や自主防災活動	45.83%
行政関係者	1	自身の避難行動や災害への備え	56.25%
	2	市の情報伝達	50.00%
	3	避難施設の開設	37.50%

どの立場でも「自身の避難行動や災害への備え」が上位に含まれており、今回の震災を契機に、市民の災害や防災に対する意識が高まっているものといえます。災害への備えに万全を期すとともに、適切な避難行動をとっていただくためには、ハザードマップの正しい理解をはじめとした防災知識の普及が重要であり、訓練や講座、講演会を充実していくことが必要です。

また、「避難施設の開設」も多くの立場で上位になっています。特に解錠については、市としても課題があると考えており、今回の調査結果でも多くの意見があったことから、鍵の管理方法や解錠を行う体制の見直しは必要であると考えます。セキュリティ対策、通信障害や停電への対応、施設の安全確認なども併せて検討し、早急に対応したいと思います。

「高齢者や障がい者など配慮が必要な方の対策」や「市の情報伝達」についても改善や対策、充実に取り組む必要があります。

問13 問12に関する具体的な内容やそのほかにもご意見ご提案がございましたらご記入ください。

256人の方からご意見等がありました。（主なもの）

【避難行動・避難訓練について】

- 災害が起きた時、介護が必要な高齢者をしっかり避難させられるか心配になりました。
- 平日の日中に震災があった場合の、保育園や小学校の避難計画について、滑川市は、低い土地に保育園があるところもあり、とっさの判断がしてもらえるのか不安。小学校で不審者からの避難訓練はあったみたいが、地震や津波の避難訓練も本気でやってほしい。通学中の避難訓練もやってほしい。
- 防災訓練は役立っていなかった。形式的なことで終わっていた。災害発生時の、初動、中期、後期と分けて具体的なシュミレーションを考え、それに沿った対策や訓練を行った方が良いと痛感しました。また、各町内で課題を出して今後の対応を話し合い避難への対応を進めて行けたらと思います。市内でも世帯参加型の防災訓練があれば有り難いです。
- 津波浸水想定を適切に見直したうえで、地区ごとの避難の要否、要援護者のフォローの方法等を市民等に周知徹底を図る必要があると思います。高齢者等の災害弱者の立場になって、直接的な被災だけでなく、避難行動等に伴う二次的な事故等を防止するための対策を徹底してほしい。
- 津波警報が出た時、避難しなくても大丈夫なはずの人たちが避難して道が渋滞になったりし、本当に避難が必要な人の妨げにならないように、各地区で避難経路や避難場所を知っておくことが必要だと思いました。短時間でいかに垂直避難出来るかを皆さんに知って頂きたい。
- 津波対策として、また避難困難な高齢者などのため、垂直避難が出来る、公共施設だけでなく、近くの民間施設（滑川駅高架橋、スカイホテルなど）の受け入れについて市が中心になり要請、協定を結んでほしい。駅北から総体への避難は津波の場合にはとても現実的とは思われない。沿岸地域での津波避難タワー的機能（例えば、3階建て公的施設の屋上に避難できるようにするなど）の整備を。

【市民への情報提供について】

- 揺れが続くと避難を考えたが、小学校が避難場所として利用出来るか、市のホームページも見たがすぐにはわからなかった。指定避難施設の情報が少ない。
- 地震発生後の避難場所を知ることも大事ですが、その避難所が開いているのか、また混雑状況はどうか、優先順位はどうか等教えてくれるアプリ、またはスマホのない方のために防災無線があれば良いかと思いました。
- 防災行政無線に関して、そもそも聴こえない・風向き等により聴こえない地域が多々あるので増設する必要がある。外に響く放送だけでは、聞こえにくいことがあるので、もっと聞き取りやすい方法か、目で見てわかる方法があればいいと思いました。
- 避難施設（今回は学校）の集まる場所にテレビがなく現在の状況がリアルタイムでは、わかりにくくなり、かえって不安でどう行動したらいいかわからず、途中で自宅に帰ってしまいました。
- 結ネットから全く情報が発信されず、残念。町内会負担で結ネットを導入したのに、全く活用されていなかった。他の連合会役員も同意見が多数だった。市の各部署が活用方法などを共有していないようだ??
- 海拔5mや10m、20m等の表示を路面や標識にて表示することにより、津波警報、大津波警報発令された際に参考になる。通行中の土地勘無い方にも解りやすく国で統一した表示を求めます。

【避難場所、避難所（開設、解錠の遅れ、運営、備蓄品）について】

- 学校の解錠が遅い。
- 我が家には半身不随で車椅子ユーザーの家族がいます。災害時、津波が来ても高い場所への避難は困難です。車に乗せて安全な場所まで移動するしかありません。建物の中にいる時に災害に遭ったら、きっとエレベーターも使えないので階段を上がれない私たちは避難を諦めるしかないと思っています。きっと避難できたとしても避難所のバリアフリーには期待できません。高齢者や身体的不自由がある者は、エレベーターがないと垂直に避難できません。エレベーターが使えないときの代替案が各避難所にあるといいと思いました。
- 多くの人が高台と言えば東福寺野自然公園って思っているので多くの人が来ていました。管理人と思われる方が、指定避難場所じゃないのでって申し訳なさそうにしておられました。が直ぐに解放してくださり、駐車場も暖房もあり、トイレもあったので助かりました。青雲閣は津波などの避難場所として耐震化して残した方が良かったと思った。東加積小学校、博物館の他にも東加積公民館や駐車場が確保できる町内の公民館など、東加積地区の避難場所を増やすことを考えても良いのではないのでしょうか。

- 施設のどこに何がどれだけあるのかははっきりしていない。冬夏など厳しい環境の時冷暖房などどう対応するのか。具体的な対応の仕方、誰が動くのか、誰が総括するのかなどが見えないので、対応が遅れていたと感じた。今回のように真冬や逆に真夏の時に災害が発生することがあります。学校が避難所になることが多いと思いますが、体育館ではなく、教室を開放してほしい。建物に入れず駐車場やグラウンドに車を止め避難した人も多かったと聞きます。その際トイレがなく困ったとのことですが、どのような対応ができるのか行政で考えてほしい。
- 今後、水害による車中泊避難（車は資産）が増える可能性が高く、車避難場所の確保、ルール、告知が求められると考えます。早期の取り組みをお願いします。
- ペットと一緒に避難できる災害避難指定所を用意した方がいい。猫が4匹いて、当日は2匹がキャリーに入り避難しましたが猫のみ車内泊になりました。寒さと不安から帰宅後、挙動不審があったため一緒に公民館等に避難できたら良かった。少なくとも滑川市に障がいや疾患、ペットに対応できる場所がないので、被災時に何処にヘルプを出せば良いか分かりません。福祉事業所も機能再開はできないと思いますし。
- 体育館に避難し、暖房器具があったが、とても寒かった。子供寝ていて起こした時、体がブルブル震え、軽い低体温症に、かかっていた。冬の避難の場合、寒さ対策が必要だと思った。高齢者、障害者、基礎疾患のある方、乳幼児などはとくに、避難先で体調を崩しかねないと思った。
- 幼い子供を2人連れての避難だったので、オムツや服などの不足、また心のケアのことを考えて避難所には行きにくかったです。
- 外国人の日本語支援教室を運営しています。地震当日の夕方に、外国人の安否確認をしました。ある外国人の話です、地震発生時、コンビニにいました。大きな揺れで、店外の駐車場に出ました。知らないおばあさんに声を掛けられ、山にいっしょに避難しようとその人の車でその人の家に行きました。しばらくしてから、近くの東加積小学校の体育館に案内され、その晩は泊まりました。私は翌朝9時に迎えに行くことを約束し、翌日小学校に迎えに行くと、係の人から、避難所は8時に閉鎖しましたと告げられ、外国人の人はどうしたか尋ねたところタクシーで帰ったとのこと。外国人への対応が適切だったか疑問。親切なおばあさんに感動した一方残念でした。
- 備蓄品が、メリカ・消防署・田中小学校に絞られているため、市内全域からの避難者が発生した場合に、備蓄品を取りに行くことに余計な人員が割かれます。最低数の分散備蓄をしておくことを再考すべきです。

【ハザードマップの見直し、周知や配布について】

- ハザードマップから浸水予想は把握していたものの、過去に経験したことのない地震を体感し、テレビから流れる「大津波警報」の不安から必要以上にパニックになってしまった。
- ハザードマップをより周知し、避難すべき地域にいる人達だけが避難すべき。
- ハザードマップ は毎年配っても良い。
- 南海トラフは日本海側に津波は来ないかもしれないが、今のハザードマップはゆるすぎるのでは?東日本大震災は想定を超えての津波だったと思うので一度見直しが必要では?
- 配布されている津波ハザードマップは、縮小しすぎていて浸水可能性のある箇所、道路が見にくく、避難導線を描きにくい。町内単位程度のハザードマップが欲しい。
- 地震発生から津波到達時間が短時間かつ防波堤で防がれており浸水深さが低い想定箇所では、自宅での垂直避難が有効だと思われる。避難所までの間に流水により足を取られ被災するとか、車での渋滞発生を防げと思う。ハザードマップ等で紹介できないのでしょうか。
- 子どもが学習の中でハザードマップを知っていたので、うちは慌てなかった。

【要支援者について】

- 高齢者や障がい者は自力での避難が難しく、身近に気にかけてくれる人がいないと取り残されてしまう。市や自治体で把握及び配慮できているでしょうか。例えば、消防などと協力し避難サポート組織を結成。避難時に手助けが必要な方に予め情報を登録してもらい、災害時に連絡や避難補助できるようにする。
- 車は、幼児や障がい者、高齢者を避難させるのを優先に、利用する体制を作る必要があるかと思います。プライバシーの絡みもありますが、ご近所の家族構成を把握したうえで、いざという時、相乗りで避難する。心身ともに健全な方は車での避難を避け、なるべく近くの避難所に徒歩で移動する。あるいは、自転車や原付バイクなどで避難する。などといった、災害に応じて様々な避難方法を考慮しておく必要があるかと思います。いずれにせよ、いざという時、誰が、どうゆう手段で、誰と、どこに避難するかを予め決めて置く為にも、家族間、自治会内での意思疎通が大事かと思います。
- 町内で独居高齢者、障害者、など助けが必要な方のマップ作りを明確にし、誰が何処に避難させるのか日頃より町内会単位での把握が必要。

【防災教育、防災意識の向上について】

- 既存自主防災組織の稼働状況を調査し、市が率先して稼働率をあげる為の取り組みをお願いしたい。（防災士数拡大においても、各町内会長から聞く言葉は「市から、是非防災士を・・・」との話で対応した事例を多く聞く。町内会単位の防災組織の作成。そこに、女性支援担当を位置付け、女性特有な生理や授乳、高齢者のオムツ等相談しやすい立場が必要
- 休日で家族が揃っていたからそんなに不安は無かったけど仕事や学校で家族がバラバラな時に災害にあった時の対処法が分からない。今回はたまたま家族で家に居た時間に発生したけど、子供が学校にいる間や、登下校中に今回のような大きな地震、津波警報が発令した場合、逃げ場が分からない子もいると思う。周りの大人が声をかけてあげるとか、地域が一丸となって協力するような取り組みがあってもいいと思う。
- 地震に対する防災意識及び知識が全然足りてない事に気付きました。そして、子供の方がしっかりと意識も知識もありました。子供が2人いて、現在中学生ですが、保育園の頃から中学校までの間に、大人よりも防災訓練をこなしているんだと実感しました。
- イエスノーフローチャートがあったらよい。災害時に市民としてどう対応すべきか、具体的にわかるものが保存版で各家庭に一部ほしい。
- 自分の住んでいる場所の液状化や揺れの大きさなども含め、リスクを正しく伝えることが、冷静で適切な避難行動につながる。避難訓練より住民を対象とした勉強会が必要と思う。
- 日頃地震は起きないと他人事の事と思っていました。実際経験して日頃から避難袋や避難場所の確認が必要だと思いました。早速、避難袋の入れ直しをしました。改めて考え直しました
- 私の家にも高齢者が居ます。役員の場合、家族を優先するのか、町内を優先するのか、悩みます。
- 各家庭で準備しておくべきリスト(備蓄や家族で決めておく事項など)を3か月に一度(中身の見直しを含め)、広報やLINEでお知らせしていただけると嬉しいです。

【市に対する要望について】

- 今回の地震で石燈籠が転倒した。滑川市からの修復に補助金等の補助は、ないのでですか？
- もう一点家屋の損壊など滑川市も件数が公表されてますが、私に被害の調査などありませんでしたが、調査の仕方は？滑川市ホームページにあるのか？手作り事業は、記載されていない。滑川市の全ての政策事業等等記載し、公表する事をお願いします。

- 各避難所で対応出来ない「医療」についての相談窓口が必要では
- 耐震改修工事の費用の助成も対象住宅を広げられないか検討してほしい。
- 被災家屋について、今の被害認定調査の内容では、内部調査をしたとしても液状化による被害が評価に反映されにくく、一部損壊判定にしかない人がいる。液状化に対する支援がなにかあれば良いが、特にないので不満に思われてしまいます。
- 屋根瓦に被害があったためブルーシートが必要になりました。行政で配布しているという情報が取得しにくかったです。

【その他について】

- 現在の堤防が十分な高さや範囲であるかを再検討していただき、さらなる被害軽減への取り組みを行なっていただきたいと思います。
- 今回の地震でも断水等によるトイレ問題大きい。既存の指定避難所（各小、中学校含む）や、今後建設予定の公的施設等への「マンホールトイレ」設置を進めるべきでは。
- 自治会連合会役員をしていますが、当日は市外の職場に居り自主防災組織の任務に就けず、町内の状況を把握出来なかった。
- 家族が別々に過ごす平日の昼間に被災してしまうことを一番恐れている。よって、特に中学校・小学校に通う我が子たちの安否確認を迅速かつ正確に出来るシステム(?) フロー(?) を構築してほしい。
- 今回は時期的に帰省や旅行している場合もあり、学校からの安否確認の連絡は遅かったと思います。たまたま被災地域にいて子供が被害に遭っていたとしても、親は目の前のことで精一杯で、学校への連絡が必要だとは考えられないと思います。子供同士のコミュニティでの安否確認の方が早く、被害状況などのやり取りが活発に感じました。
- いまだに余震は怖い。地区の消防団の方が一生懸命動いておられてありがたかったし、心強かった。
- 知的障害児を育てているが、災害時にどのように対応すべきかを保健センター等で指導してほしい。障害があり避難所では過ごせない（走り回る、声だす等して迷惑になるから）と思い知人宅に避難したが、災害時の具体的な対応がわからず不安である。
- 今回の避難は数時間で済んだけど、もし何日間も避難する状況になった場合の飼っているペットの避難先での過ごし方が不安になりました。
- 今回は、夜間や早朝でなく、雪もなく、大風もなく、火事も起こらず、火事場泥棒もなく、で幸いでした。
- 滑川に限らないが、大小の河川が多くあるが、小さな河川の橋が古く、地震による疲労がないか、安全点検の見直しが必要ではないか。